

# I 博物館事業

## 1 常設展示リニューアル事業

平成 17 年 4 月の合併により誕生した新一宮市には、一宮市博物館、尾西歴史民俗資料館、木曾川資料館という 3 つの歴史系展示施設と、三岸節子記念美術館という美術系展示施設が存在することとなった。こうした博物館群を今後有効に活用していくとともに、各施設の常設展示等のリニューアルや収蔵スペースの確保など、各種の整備事業を進めていくため、平成 17 年度から具体的な検討に入った。

平成 17 年 7 月に、一宮市博物館の常設展示の諸問題等を検討するため、「一宮市博物館運営等指導委員会会議・常設展示リニューアル小委員会設置要綱」を制定し、委員の委嘱を行った。この一宮市博物館運営等指導委員会会議・常設展示リニューアル小委員会において、平成 19 年 6 月に実施された市政アンケートの結果を踏まえつつ、平成 19 年度に「一宮市博物館群整備活用基本構想」が答申された。これを受けて、平成 20 年度に「一宮市博物館常設展示リニューアル設計者選定委員会設置要綱」を制定し、3 回の設計者選定委員会を経て、プロポーザル方式により株式会社丹青社を一宮市博物館常設展示リニューアル設計者に選定した。

平成 21 年 5 月に株式会社丹青社と基本設計策定業務委託契約を締結、平成 22 年 2 月に業務を完了した。平成 23 年 3 月に株式会社丹青社と実施設計策定業務委託契約を締結、平成 23 年 12 月に業務を完了した。平成 25 年 8 月に株式会社丹青社と一宮市博物館常設展示リニューアル業務委託契約を締結し、平成 27 年 3 月に業務を完了した。

本事業にともない、平成 25 年 3 月 11 日から平成 26 年 10 月 17 日まで臨時休館した。本事業では、常設展示のリニューアルだけでなく、展示空間の照明器具の LED 化、壁面の塗り替え、絨毯の張替等も行った。また、エレベーター棟の増築およびエレベーターの新設、喫茶コーナーの新設を行った。

## 2 常設展示

### 一宮市博物館常設展示リニューアルの基本的な考え方

平成 20 年度策定

一宮市博物館は昭和 62 年 11 月の開館以来、市史編さん事業の中で収集された資料を基盤とし、実物資料の連関を重視した形で一宮市の歴史と文化を表現する常設展示を行ってきた。その中で一宮市の独自性を具現化する切口として、「ひらけゆく尾張平野」「中世の一宮」「ひとびとの生活」「織物のまちへ」の 4 テーマを設定し、通史展示を構成してきた。

開館後 20 年が経ち、一宮市・尾西市・木曽川町の合併によって類似施設が増え、それぞれの役割と分担を明確にする必要性に迫られている。一宮市博物館はそれらの施設の核（コア）であり、一宮市の「一宮の歴史と文化」の入口として全体を見据え総体的に捉える必要がある。そこで、開館以後に発見された新しい歴史的な事実や資料を踏まえて常設展示を再構成することにより、来館者に一宮市の歴史と文化の特徴を体系的に提示するものとする。

#### 展示のコンセプト

##### (1) 常設展示のコンセプト

常設展示では、沖積平野という自然環境や時代によって変化する社会的要因の中で、人々がどのように生活し、文化を育んできたのかに視点を当てる。さらに、他地域との交流や比較という目線を取り入れることにより、当地の地域的特性をさらに明らかにする。

##### (2) 重点化した常設展示

常設展を重点化したものとし、展示替えが可能な空間を増やすことにより、収藏品ギャラリーとして活用する。また、ギャラリーを特別展の展示室として利用することにより、より大規模な特別展の誘致を可能にするとともに、学校教育や地域と連携したテーマを取り上げた小展示を行う。

##### (3) 交流して学ぶ体験型学習室

一宮市博物館は、これまで 17 年間にわたり、小学校 4 年生・6 年生を中心とした学校教育との連携の中で、市民に博物館の意義や役割について伝えてきた。今後は、その意識を持った世代が子どもを育てる際、教育の場として博物館を利用する可能性は高まるはずである。そこで、気軽に歴史や文化を学ぶ場として、より多くのメニューを用意し、「飽きない」「いつ来ても新鮮」な活動を目指す。

##### (4) 資料・情報検索

常設展示を重点化することにより実物資料として見せられなくなった部分は、検索ができるように情報化する。特に、一宮出身でさまざまな分野で活躍した・している人々の情報や、収蔵資料、地域遺産の検索を可能にする。

##### (5) 市民の憩いの場

一宮市の歴史と文化の入口として、市民が日常的に集い学ぶことができる施設を目指す。

##### (6) 一宮市全体がエコミュージアム

市域にある史跡、寺院、神社、祭り、芸能、遺跡、植物など歴史や文化を表象する遺産を大いに活用すべく、「織物散歩道」「古墳散歩道」「木曽川散歩道」「街道散歩道」など数多くの散歩道を提示する。

## 常設展示の構成

展示ホール 一宮市の見どころ案内

真清田神社復元模型 妙興寺復元模型 展示替えコーナー 一宮市博物館収蔵品検索コーナー

### 展示室1 いちのみや歴史絵巻

一宮市の名前は、尾張国の一宮である真清田神社に由来する。この地域に人が住み始めたのは縄文時代中期にさかのぼり、やがて木曾川の雄大な流れのもたらす豊かな水と土壌に支えられ、長い歴史を刻んできた。ここでは、各時代の代表的な資料の展示を歴史絵巻と名付け、その始まりから今日までの一宮市の成り立ちを概観する。

縄文時代 尾張平野のあけぼの

弥生時代 稲作のはじまり 環濠集落（猫島遺跡）

古墳時代 豪族の台頭 前方後方というカタチ（西上免遺跡） 人麿塚・戸塚の七つ石 岩塚古墳・石棺

古代 寺院の建立と文字の普及 護岸施設と祭祀（大毛沖遺跡）

中世 地方武士の活躍 中世の墓制 法圓寺中世墓 一宮市域の城と武将たち 黒田城と仁王胴具足

江戸時代 尾張藩による支配 尾張絵図 北方代官所復元模型

近現代 尾張平野の中核都市として 毛織物産業の発展 濃尾地震と一宮市域 一宮空襲 戦後の復興と発展

### 展示室2-1 自然と暮らす

一宮市の北西に流れる木曾川は、長い歴史の間に何度も洪水を引き起こしながら、この地域に扇状地や自然堤防、後背湿地の組みあつた地形を生み出した。人々は堤防を作り水害と戦う一方で、それぞれの土地の特性にあわせて稲作や棉作、養蚕などを営んできた。また、冬には北西から「伊吹おろし」と呼ばれる冷たく乾いた風が吹き、この風を利用して作られる大根切干はこの地域の名産品となった。ここでは、悠久の流れのもとに暮らしてきた人々のようすを、その自然の成り立ちから紐解く。

妙興寺の森 一宮市の地形と地質 島畑の風景 田畑を耕す 大根切干をつくる

### 展示室2-2 人と暮らし

一宮市域は、古くは鎌倉に向かう鎌倉街道が通り、江戸時代には美濃路や岐阜街道、巡見街道の通る交通の要衝であった。街道沿いの村々には市が立ち、人々は農作物や手工芸品を売り、暮らしに必要なものを買っていた。また、街道だけでなく河川を利用して運ばれる物資や人の流れもあった。ここでは、人々の暮らしを結び目に、街道や水運によるものの流通と、織物をはじめとする手仕事や衣食住を支えた道具を紹介する。

街道と市 街道を歩く 川を往く 筏による運材 川と暮らし 紡ぎ織る 養蚕の仕事

職人のわざと道具 遺跡にみる鍛冶 清郷遺跡・小鍛冶遺構 鍛冶の道具 竹細工の歴史 竹細工の道具

暮らしと道具（展示替えコーナー）

### 展示室2-3 祈りと文化

人々の暮らしのそばには常に祈りがあつた。弥生時代の赤く塗られた優美な土器や、かつて美しい音色を響かせていたであろう銅鐸は、太古の人々の祈りのありようを語る。また、尾張国一宮の真清田神社や、妙興寺、長隆寺などの仏教寺院に伝わる宝物には、幸福や救いを求める人々の願いがこめられている。やがて江戸時代になると、漢詩や南画といった文人文化がこの地域にも花開いた。ここでは、木曾川の豊かな流れに生まれ、尾張平野に広がった祈りと文化の世界を紹介する。

縄文時代の祈りの空間 赤への憧憬 鳴らす銅鐸 青銅器の輝き 水辺の祭祀 真清田神社 仏教の広がり文化

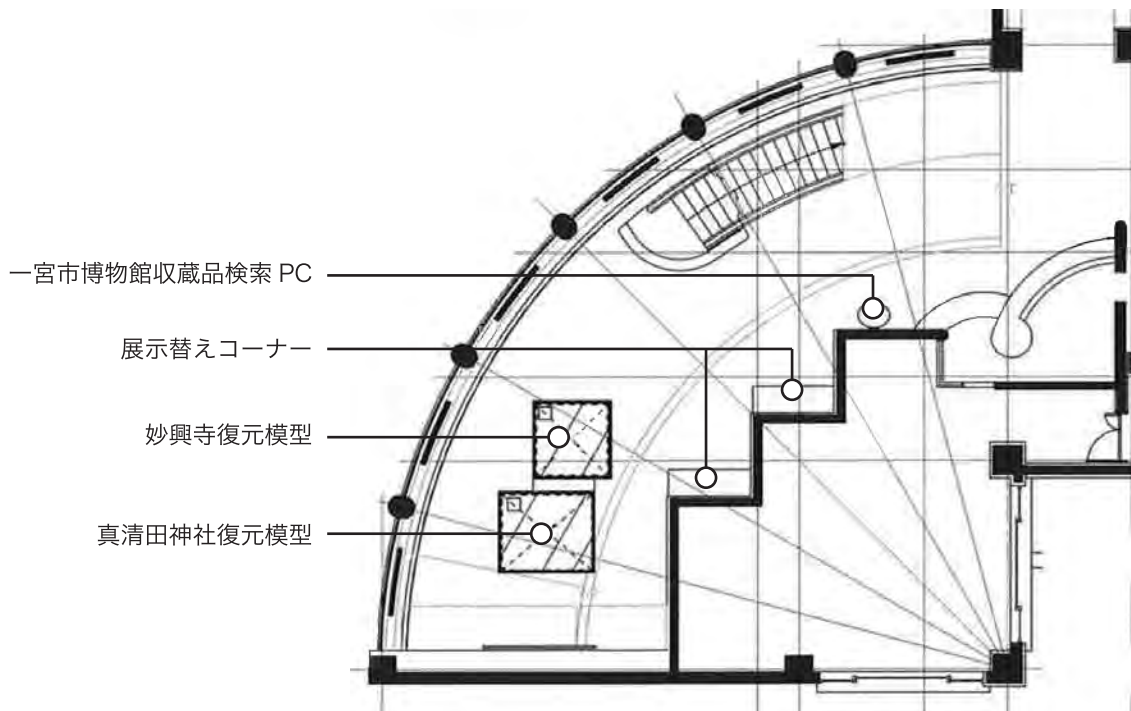
### 学習室 たいけんの森

学校休業日の土・日曜日を中心に、さまざまなテーマを体験ができるものとする。体験を通じて学ぶものとするが、歴史的背景などの教育普及を必ず付加する。さらに、学校教育のカリキュラムに合わせるなどの工夫をし、より利用しやすくする。

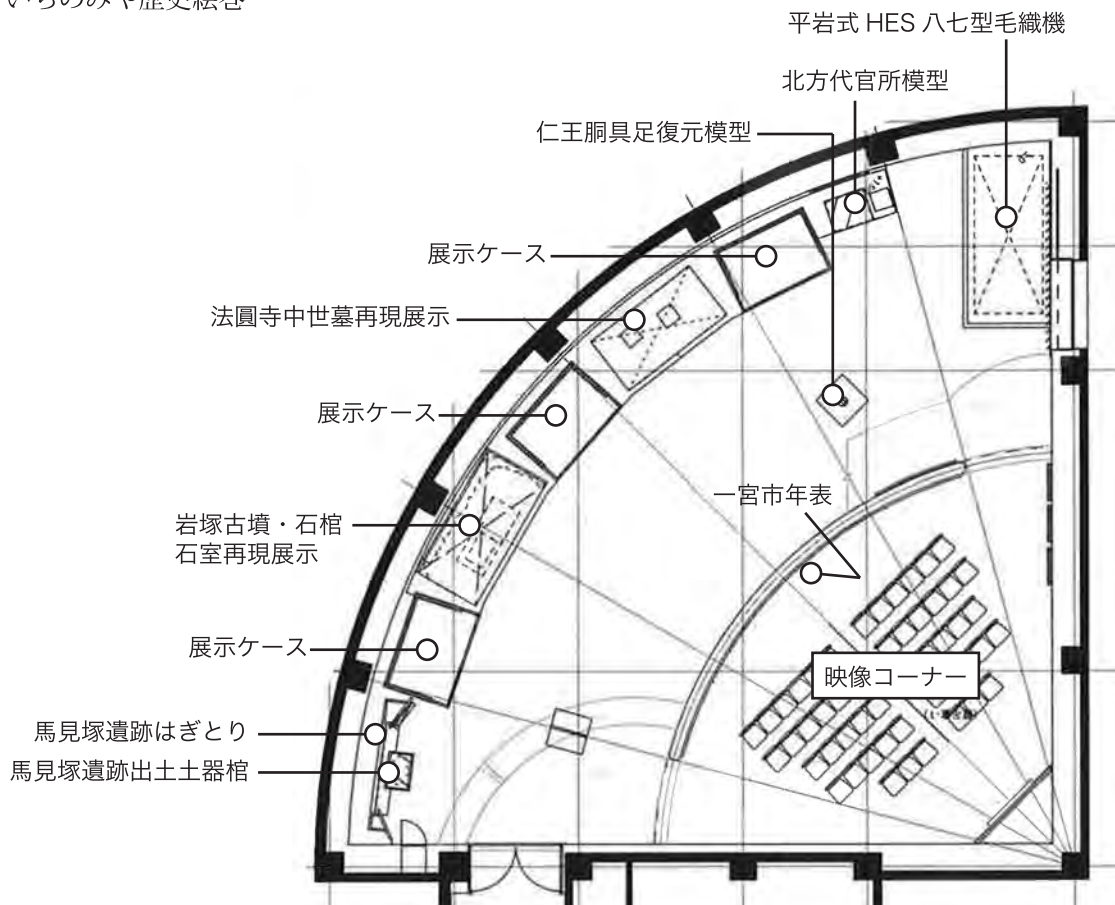
具体的には、自由に利用できる体験キットの設置、土日祝のわくわく体験、尾張もめん伝承会ボランティアによるはたおり・糸つむぎ体験の三本柱で運用を行う。

体験キット 土器パズル（4種類）、一宮市連区パズル、昔の台所キット、ぐいち（お手玉）、わらざうり、洗濯板など

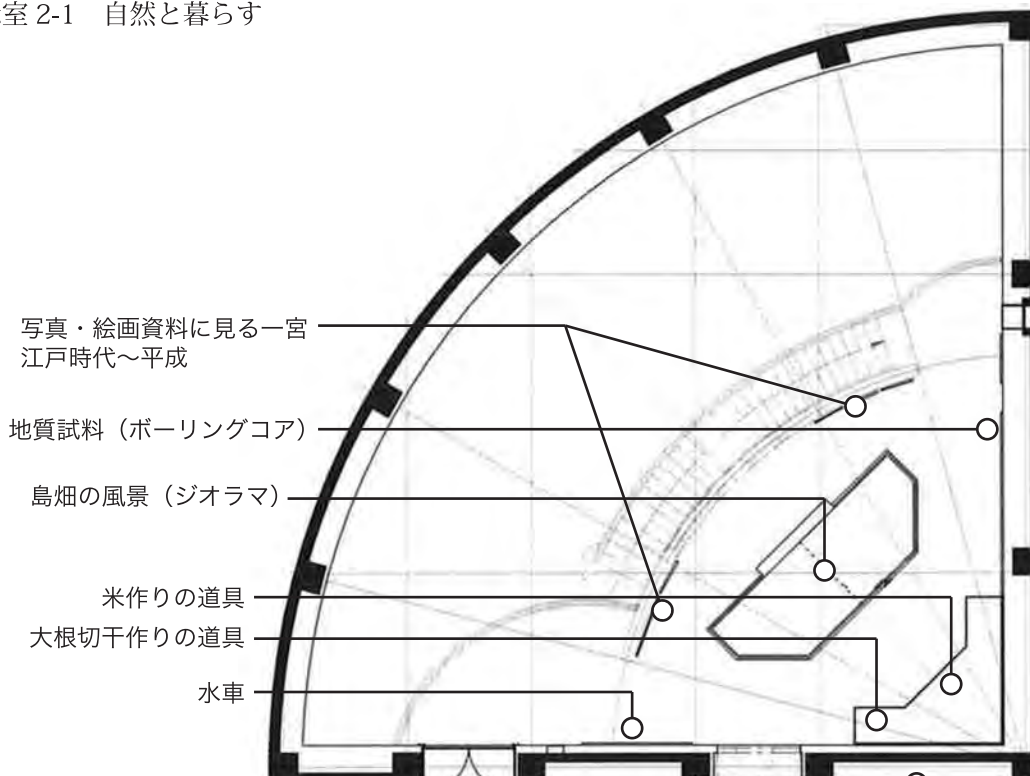
■ 展示ホール 一宮市の見どころ案内



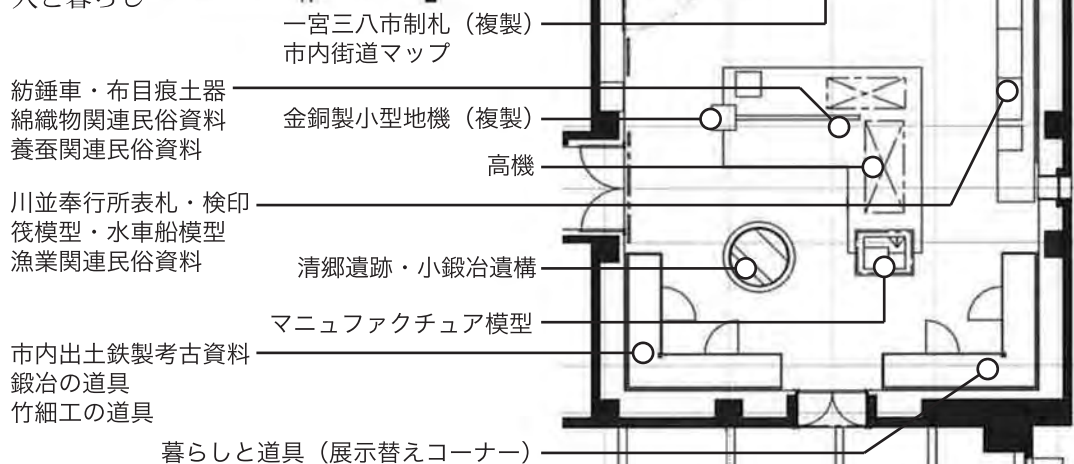
■ 展示室 1 いちのみや歴史絵巻



■ 展示室 2-1 自然と暮らす



■ 展示室 2-2 人と暮らし



■ 展示室 2-1 祈りと文化

